

■ドイツ：連邦系統規制庁、送電線の増強遅延で混雑処理費用が急増と発言

2015年10月30日に独専門誌が報じたところによると、連邦系統規制庁で系統開発を担当するフィシャー氏が同月27～28日にかけてベルリンで開催された会合で再給電に伴う費用が2015年は5億ユーロに達するとの見方を示した。再給電とは、系統安定を確保するために、送電系統運用者（TSO）の給電指令に基づき、混雑区間の両端で電源持替（発電計画の調整）を行い、相殺潮流を流すことにより混雑方向の潮流を抑制する混雑処理の方法。多額の再給電費用がかかっているのはドイツ南北の送電線の増強が遅れているため。2009年に施行された系統増強法で優先的に増強すべき送電線として23のルートが指定されているが、2016年までに工事が完了するのは多く見積もっても全体の40%と見られる。